

# 南ヶ丘小学校 いじめ・不登校対策マニュアル

スピード感をもちながらも慎重な初期対応  
(危機管理のさしすせそ)

## 1 基本認識

いじめ・不登校は、「どの学校、どの学級でも起こりうるもの」という基本認識に立ち、学校の教育活動全体を通して、全ての児童を対象に、いじめ・不登校に向かわせないための未然防止と、早期発見・早期対応に取り組む。

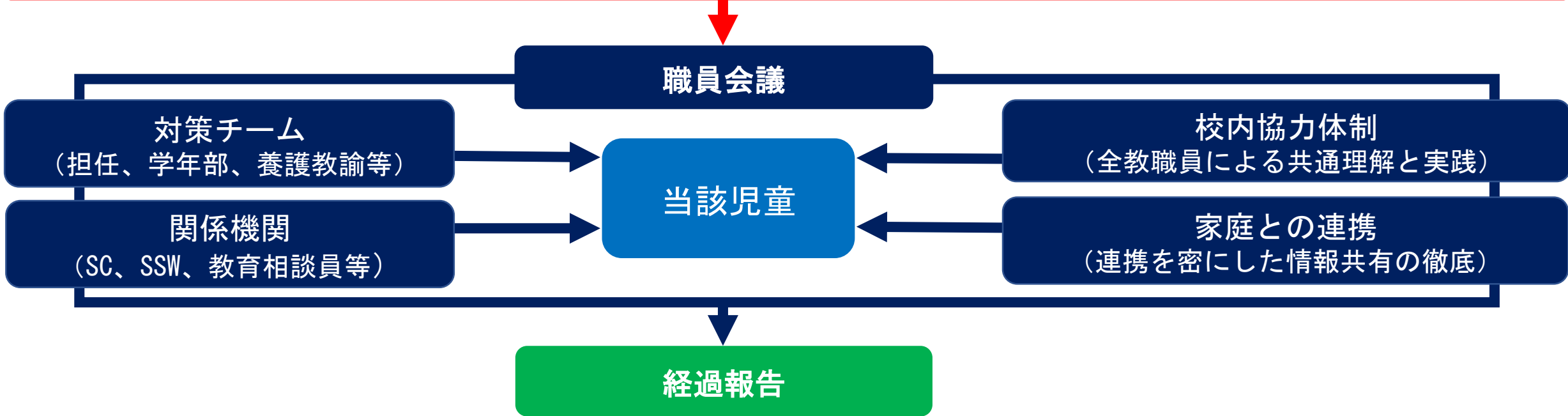
## 2 いじめ・不登校対応の流れ

いじめ・不登校の事案発生

SC、SSW等の  
参加も考慮

**いじめ・不登校防止対策委員会 ※原則毎月開催（緊急等はその都度開催）**  
(校長・教頭・主幹教諭（情報集約担当者）・教務主任・人権教育主任・道徳教育主任・生徒指導主任・情報教育主任等)

①事実の確認 ②対応策の協議・検討（役割分担の明確化） ③対策チームの編成 ④指導過程を確実に記録 ⑤校長の指示



3 具体的な取組  
いじめ対応

いじめ対応の主な流れ

- ①発見者が、教頭・情報集約担当者（以下担当）に情報を報告する。担当は、校長へ報告するとともに情報を整理する。
- ②担当は、いじめ対策委員会を開催し、指導・支援体制を組む。
- ③担任は、児童（いじめられた児童（最優先）、いじめた児童、いじめを見ていた児童）への具体的指導・支援を、スピード感をもって行う。同様に、保護者への連絡・指導も行う。

支援の段階	主な具体的取組
未然防止	○児童がわかる、児童が活躍できる授業づくりに努める。 <u>子どもが安心・安全に生活する規律指導</u> にも努める。 ○教師の言動を振り返る場を設定する。
早期発見	○日記指導やアンケート（本校独自や県アンケート）等を効果的に活用し、小さな変化も逃さず対応する。

不登校対応

支援の段階	主な具体的取組
未然防止	○児童が安心・安全して学べる学校の風土・雰囲気づくりを心がけ、全教職員が共通認識を持って取り組む。 ○SCやSSW等の専門家とも連携しながら、SOSの出し方に関する教育やSST等の授業実践を積み重ねる。
初期対応	○「愛の１・２・３運動＋１」を徹底する。欠席１０日に到達するまでには、学校内外の専門機関との連携も図る。 ○不登校対策委員会を定期的に開催し、関係者を交え、支援方法等を検討する。
自立支援	○教育支援センター等と連携し情報共有を密にすることで支援体制を構築する。 ○教室と家庭をつなぐため、ICT活用による学習支援等を行う。

「あいさつ」「時間を守る」「整理整頓」